

左頁

新・やまと物語

第三卷



左頁

目次

第1巻

第2巻

①『新・やまと物語』の題目

まえがき

序論

この物語の主張

系譜

荒筋

『日本書紀』の記載におけるかくれた約束事

新・やまと物語

第一編 神代〔先史時代〕～応神朝〕

第一章 天地開闢

第二章 激動の黎明期

第三章 極東地域にみられる各種文化についての考察

第四章 北九州・中国・近畿地方の遺跡が語る激変の時代

第五章 東西二つの文化圏の対立(当初の弥生人と箕子の対立)

(以下、インターネット)

第3巻

第4巻

第六章 太伯の後

第七章 倭国創建(会稽の東治から東遷。箕子国内の極南界に倭奴国を建国)

第八章 垂仁天皇(五十七年、極南界の倭奴国、後漢へ朝貢)

第九章 景行天皇(一〇七年、倭奴国、後漢へ朝貢)

第十章 成務天皇(倭国大乱。倭国、北九州・山口地方に三十余国を置く)

第十一章 仲哀天皇

第十二章 神功皇后(息長足姫尊)

第十三章 三国鼎立

第十四章 洛陽の変遷の歴史

第十五章 衛氏朝鮮以後の朝鮮半島の歴史

第十六章 景初三年春

第十七章 魏国への旅立ち

第十八章 洛陽の都

第十九章 帰途

第二十章 単位

第二十一章 倭国北辺の国々

第二十二章 新王城

第5巻

第6巻

第二十三章 住吉の客人

第二十四章 倭王に拝假す

第二十五章 帰国を延しての倭国での日々

第二十六章 冬至の祭〔新嘗祭〕

第二十七章 倭国の文化

第二十八章 邪馬台国に現出した洛陽城

第二十九章 龍神の舞

第三十章 相剋

第三十一章 玉匣

第三十二章 東海の島の奇妙な習俗

第三十三章 梯儂の安否をたずねて

第三十四章 日御子の哀しみ・そして死(徑百余歩の塚の内へお隠れになる)

第三十五章 悪阻の儀式(殉葬する者、奴婢百余人)

第三十六章 千餘人もの戦死者を出した内乱

第三十七章 天石窟の儀式(年齢と地位と名前を受け継いで出生する襲名の儀式)

第三十八章 女王認知の儀式〔大嘗祭〕

第三十九章 素戔嗚の偉業

第四十章 倭国の女王田心姫

第四十一章 応神天皇(上)

第7巻

第8巻

第四十二章 朝鮮半島の歴史

第四十三章 応神天皇(中)

第四十四章 東の拘奴国壊滅(中国地方平定)

第四十五章 母国『出雲国』の国譲り(近畿地方を譲り受ける)

第四十六章 応神天皇(下)

第二編 繰り返される二朝の慣例(仁徳朝～崇峻朝)

第四十七章 第二期共立時代(大雀命・宇遲能和紀郎子)

第四十八章 仁徳天皇

第四十九章 謎の世紀『五世紀』

第五十章 装飾古墳

第五十一章 近畿地方の古墳

第五十二章 隠された二朝時代の概要(第一期二朝時代・第二期二朝時代の経緯のあらまし)

第五十三章 平富等大公主(後の継体天皇)の出自について

第五十四章 雄略天皇(「共治国家」「共治天下」を望む遺詔)

第9巻

- 第五十六章 〔天上国九州の天皇〕 継体天皇
第五十七章 〔日辺日本国の天皇〕 清寧天皇（白髮武
廣國押稚日本根子天皇）
第五十八章 飯豊天皇
第五十九章 顯宗天皇（弘計天皇（弟））
第六十章 仁賢天皇（億計天皇（兄））
第六十一章 武烈天皇（仁德系の王統最後の天皇）
第六十二章 時代の圧縮
第六十三章 第一期二朝時代の終焉
第六十四章 第二期二朝時代の幕開け
第六十五章 欽明天皇（天國排開廣庭天皇）
第六十六章 敏達天皇
第六十七章 用明天皇
第六十八章 崇峻天皇（朕が嫌しとおもふ所の人を断
らむ）

- 第三編 日本歴史改編、そしてその後〔推古朝〕
現代〕
第六十九章 第三期二朝時代（天上国の推古天皇・日
辺日本国の等与刀弥々大王）
第七十章 推古朝の寺院・仏像

第10巻

第12巻

第11巻

- 第七十一章 阿蘇山
第七十二章 隋の文帝、所司をして倭国の風俗を訪わ
しむ
第七十三章 国に二の君非ず
第七十四章 皇太子廐戸豊聰耳皇子
第七十五章 金人の夢告
第七十六章 太子の苦惱
第七十七章 聖德太子の薨去
第七十八章 蘇我馬子の死、そして推古天皇の崩御
第七十九章 舒明天皇
第八十章 皇極天皇
第八十一章 孝德天皇
第八十二章 斉明天皇
第八十三章 高市天皇（舒明天皇の重祚）
第八十四章 天智天皇
第八十五章 壬申乱
第八十六章 宗像神社
第八十七章 天武天皇（上）
第八十八章 新城（平城宮）
第八十九章 天武天皇（下）
第九十章 持統天皇

第13巻

- 第九十一章 文武天皇
第九十二章 元明天皇
第九十三章 奈良時代
第九十四章 平安時代（上）
第九十五章 小野小町
第九十六章 平安時代（下）
第九十七章 南北朝時代（二朝時代）
第九十八章 戦国時代
第九十九章 近世（安土・桃山・江戸時代）
第一百章 現代及び未来
あとがき

②『新・やまと物語』第4巻の目録

新・やまと物語

- 第一編 神代（先史時代）応神朝
第六章 太伯の後
第七章 倭国創建（会稽の東冶から東遷。箕子国
内の極南界に倭奴国を建国）
第八章 垂仁天皇（五七年、極南界の倭奴国、後
漢へ朝貢）
第九章 景行天皇（一〇七年、倭奴国、後漢へ朝
貢）
第十章 成務天皇（倭国大乱。倭国、北九州・
山口地方に三十余国を置く）

追加資料
『干支表』

『図・表・写真図版索引』

※第一巻末尾の年表を、第十三巻末尾にも
掲載しています。

吳滅亡
473年

前四七三年に

539¹⁻² 吳王 君主 521¹⁻²
520¹⁻³

520¹⁻³

史記上 335¹

以下 13.50M

130(2018)12.3(月)から

以下、第一巻に合わせて下さい。
真の上半分

第六章

太伯の後

吳越同舟

周の古公亶父には太伯・仲雍・季歴とい

う三人の男の子があった。(「荊楚」第一編

の冒頭において既に) 太伯と仲雍は、季歴にあとをつかせようと

思ひ、父のもとを去って南方の荊楚の地へお

もむいた。以下第161回「春秋時代の版図」参照

年頃のことだった。(既述) 周の武王が殷を滅ぼしたのは、前一〇〇

在の吳の地域」の君主になった(ようである。第17表参照。追って詳述)

吳王夫差が越王句踐(句踐)との戦いに破れ、

自殺し、吳国が滅亡する迄の間

史記上 335¹⁻² 13.50M

525¹⁴ のち後 792¹ 大元

590¹-2/5 吳・侯國の地図

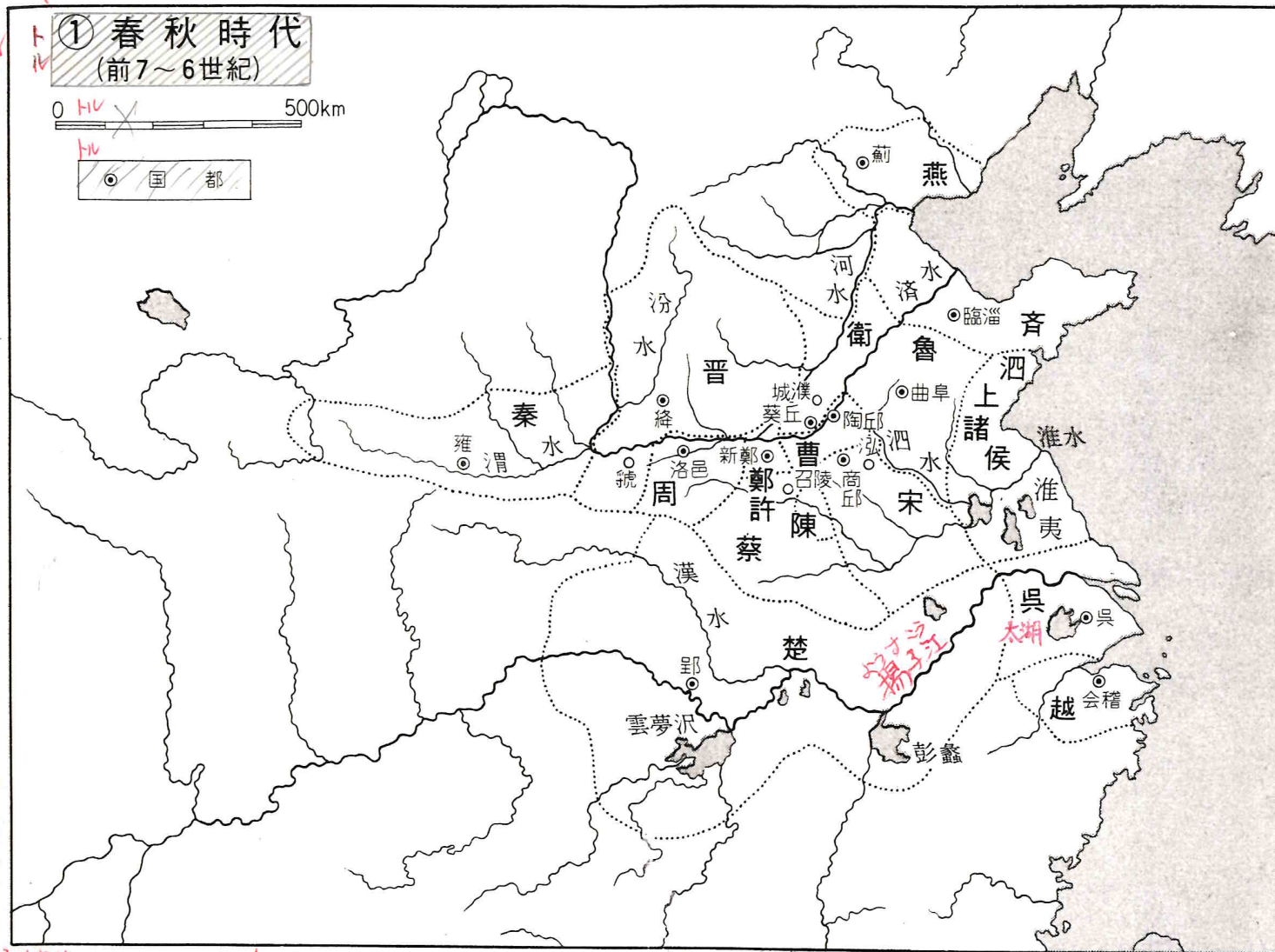
520¹-2/3

・ 右頁の上半分に
掲載下さい。

この位置のママ

539¹
晉 → 宋と移す

周の時代区分を4未
99



ようすこう
揚子江
←太湖 ヒメに
下さい。

↓HV

520¹-1/3 11頁
12人
春秋時代の版図

以下
同じ
中心の町
13日
中心の町
14日

第161図 春秋時代 (前7～6世紀)

「東洋史辞典」創元新社、911頁の地図参照。

南の隣国

520^P-3/3

吳・越の地理
東洋史 911^P-2, 71^P 越

542^P

東洋史 212^P 吳
同組 540^P

揚子江下流域の吳と、その南に隣接する
越は楚の友好国と、戦闘に明けく
る。こととなる。(「東洋史辞典」創元新社、
「吳越同舟」とは、
仲の悪い者どうしが同じ場所に居合わせ
る。
情況をいう。(「広辞苑」参照)
吳と越とは、江南のほぼ同じ
ような所で敵対しあっていたのだった。
もともと、両国の風俗・習慣など互にか
なり似た点があつて、――吳と越とを混同
しがちである。
そこで先ず「吳の南隣りの国」越山につい
て、極く簡単に見ておこう。

⊗

大正「里山」文化期の「うく2-1/4

521^p-1/3

かこう
夏后 倭人伝を漢文 和訳ルビ
新編 100頁 大電

越国

越とは、どんな国だったのだろうか。

遥か遠い大昔、中国に夏朝という王朝

が栄えていたと言われている。(※第16表参照)

舜の禪を受けた禹が建国。中国最古の王朝で、

諸侯におさめて位につき、夏后と称した。

都は、山東省地方から、山西省地方へ遷さ

れたようだ。云々下

という。(「広辞苑」へ夏へ禹)。『東洋史辞

典』創元新社へ夏へ禹。『世界大百科事典』平

凡社へ夏へ禹へ参考)

なお、第三章『遼東半島に築かれた積石塚』

において、こう述べた。

「遼東半島の西端部は、対岸の山東地方と

密接な係りがあり、特に前二〇〇〇年頃以降

緊密さを増す。

墓の副葬品には、高い技術によって作ら

た、卵殻黒陶と、いう山東地方からの搬入品

半前に

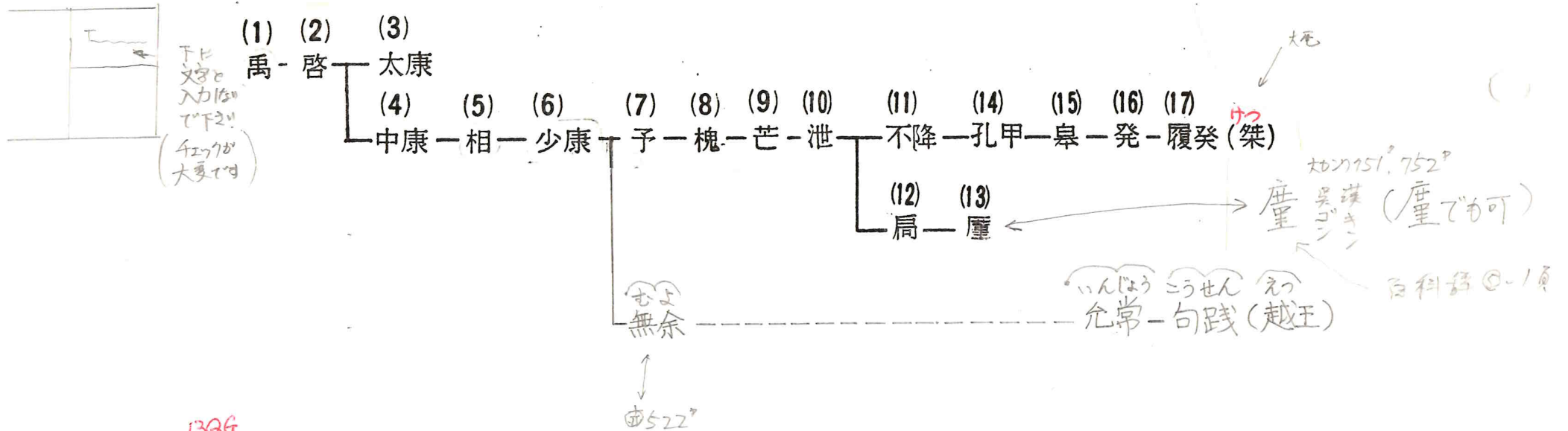
・右頁の上半分に掲載したい。

・左右に大きくはみ出させて下さい。

15Q4 中心ふりかけ

521^P-2/3

第16表 夏(中国最古の王朝) 略系図



13Q4

『東洋史辞典』創元新社、昭和44年5月15日(6版)発行、810頁、他参照

夏
・百科事典 ⑤-1頁
・東洋史辞典 100頁、810頁参照

とみなされるものがある。
一 かるに山東地方へ殷王朝へ前十六世紀頃
し前一一〇〇年頃の勢力が及んで、山東地
方と遼東半島との関係は断たれた。
こうして遼東半島は、僻遠の地と化す

技術水準の高さを示しているのかも知れない。
* 卵殻黒陶は、夏の国の

夏の時代の文化遺跡として、中原の彩陶文

化をあてる説も、東方の黒陶文化をあてる説
も、ともに反説として可能性はあるが、不
確かであることをまぬかれない

という。(「世界大百科事典」平凡社へ夏
参照)

④

魏志偉 43^P

ニリヨウ(ニリヨウ) 4000
焼 蚊 電 灯 電 灯 5000 蚊
大カン 1959 年 762° 軒 102°

3ない蚊 東洋史102 522^P - 1/2

施 27 系統 5 系統
 カン 1564 相 失 漢 1 施
 相 失 漢 1 施
 カン 1564 相 失 漢 1 施

夏五代の王・相が弑せられ、夏朝は一時中絶の止むなきに至ったが、夏統は夏朝の中絶すること四十年後、相の子の少康は、夏朝を中興（いってたん）衰えたのち再び盛んにすることとして夏六代目の王（在位二十一年といわれる）になったという。へ「岩波文庫」四三七〇、四三〇四四頁。第16表参照。恐らく、その当時のことだったであろう。

「夏」の少康の子が會稽（かいつけ）江南の地域。會稽郡は秦始皇帝が設けた郡の名。今の江蘇省南部と浙江省の大部分の地方に會稽郡を置いたの地に封ぜられ、断髪・文身（いれずみ）の害を避けたという。（「魏志倭人伝」へ「東洋史辞典」創元新社へ「會稽郡」参照）

「史記」へ「越世家」には、

足らぬ 和の 1886^p 史記(大) 246^p 倭人伝 屯田 80^p
早葉 荒れ地 せいふ 史記 卷 533^{nc}

(*)

次のように記されてい
る。越王勾踐、其の先
祖は禹の苗裔に
て、夏后の帝少康の庶子なり。会稽に封ぜら
れ、以て禹の霊を謹んで祭祀す。文身断髮、
草萊を披きて、邑をつくる。――二十
余世後の允常が死んだ。その子の句踐が立
つて越王と称した。水つまり、越の先祖を夏
王朝の祖である禹に
おいてい
る。

「禹は、会稽を崩し、ここに葬られた」とある。

「また、呉越春秋は春秋時代の呉・越兩國の興亡の顛末を記した書。一〇巻。後漢の趙曄撰」は「禹から六代後の帝少康の時代に、禹の祭祀が「会稽で」絶えろ」とをいふ、子供の無余らに越に封じた」と、史記とほぼ同じような説を載せている。

「倭人伝を読むと森浩一、中公新書、ハのハ一頁参照」

た断つ
元1381

春秋左氏 437
天手左氏 437
2468-1/2 後佐

上に向いた冠

冠 828-9

春秋左氏 437
天手左氏 437
2468-1/2 後佐

数文 555
523 P-1/2

中口の...
42, 711
同又 520

520 そこで先ず

呉国

それでは次に、太伯が立ち去った呉国につ

いて見てみよう。(以下、第11表参照)

夏王朝に続く殷王朝の長い治世も末期の頃

となつたとき、古公亶父の子の太伯と仲

雍は、弟季歷に位をゆずるため、南方へは

り、荊蛮の地に入った。(既述)

太伯は、文身断髪した荊蛮の地の人々の中に

あつても、毅然として周の礼を守りつづけた。

太伯は周の礼服の一つである「委貌の冠」を

い色の礼服を着用し、委貌の冠を治めた。

冠のかつて周の礼を治めた。

位を継ぐと、荊蛮の風俗にたがって髪を断

ちきり、体に入墨をし、その体を露出して飾り

としたという。(春秋左氏伝、哀公七年条参

照)

もつとも参考迄に記すと、口史記には、

太伯・仲雍の二人とも文身・断髪したかのよ

1566

第17表

「周」および「吳」の世系表

(想像)

由539-7/

全面

右頁に配置したい。

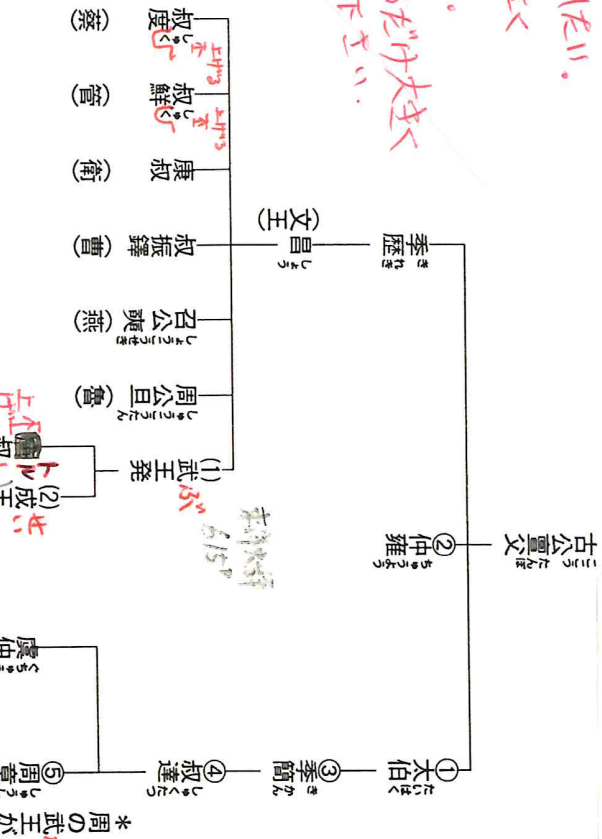
はみ出た大きく掲載下さい。

文字をでこぼしだ大きくして書いて下さい。

523¹-2/2

由539¹ 11代

由529¹-2/2



24

由529¹ 11代

由539¹ 11代

由520¹ 11代

- 東洋史辞典 357¹ 811 812²
- 中口のあけぼの 124¹
- 周の時代区分表 (小町本4巻)

吳朝系図 由539¹-2/2

由539¹-2/2 11代

(37) 前二五六年に周滅亡

(25) 夫差

(24) 唐

(23) 敬王

(22) 平王

(21) 成王

(20) 武王

(19) 周章

(18) 周章

(17) 周章

(16) 周章

(15) 周章

(14) 周章

(13) 周章

(12) 周章

(11) 周章

(10) 周章

(9) 周章

(8) 周章

(7) 周章

(6) 周章

(5) 周章

(4) 周章

(3) 周章

(2) 周章

(1) 周章

(0) 周章

(-1) 周章

(-2) 周章

(-3) 周章

(-4) 周章

(-5) 周章

(-6) 周章

(-7) 周章

(-8) 周章

(-9) 周章

(-10) 周章

(-11) 周章

(-12) 周章

(-13) 周章

(-14) 周章

(-15) 周章

(-16) 周章

(-17) 周章

(-18) 周章

(-19) 周章

(-20) 周章

(-21) 周章

(-22) 周章

(-23) 周章

(-24) 周章

(-25) 周章

(-26) 周章

(-27) 周章

(-28) 周章

(-29) 周章

(-30) 周章

(-31) 周章

(-32) 周章

(-33) 周章

(-34) 周章

(-35) 周章

(-36) 周章

(-37) 周章

(-38) 周章

(-39) 周章

(-40) 周章

(-41) 周章

(-42) 周章

(-43) 周章

(-44) 周章

(-45) 周章

(-46) 周章

(-47) 周章

(-48) 周章

(-49) 周章

(-50) 周章

(-51) 周章

(-52) 周章

(-53) 周章

(-54) 周章

(-55) 周章

(-56) 周章

(-57) 周章

(-58) 周章

(-59) 周章

(-60) 周章

(-61) 周章

(-62) 周章

(-63) 周章

(-64) 周章

(-65) 周章

(-66) 周章

(-67) 周章

(-68) 周章

(-69) 周章

(-70) 周章

(-71) 周章

(-72) 周章

(-73) 周章

(-74) 周章

(-75) 周章

(-76) 周章

(-77) 周章

(-78) 周章

(-79) 周章

(-80) 周章

(-81) 周章

(-82) 周章

(-83) 周章

(-84) 周章

(-85) 周章

(-86) 周章

(-87) 周章

(-88) 周章

(-89) 周章

(-90) 周章

(-91) 周章

(-92) 周章

(-93) 周章

(-94) 周章

(-95) 周章

(-96) 周章

(-97) 周章

(-98) 周章

(-99) 周章

(-100) 周章

(-101) 周章

(-102) 周章

(-103) 周章

(-104) 周章

(-105) 周章

(-106) 周章

(-107) 周章

(-108) 周章

(-109) 周章

(-110) 周章

(-111) 周章

(-112) 周章

(-113) 周章

(-114) 周章

(-115) 周章

(-116) 周章

(-117) 周章

(-118) 周章

(-119) 周章

(-120) 周章

(-121) 周章

(-122) 周章

(-123) 周章

(-124) 周章

(-125) 周章

(-126) 周章

(-127) 周章

(-128) 周章

(-129) 周章

(-130) 周章

(-131) 周章

(-132) 周章

(-133) 周章

(-134) 周章

(-135) 周章

(-136) 周章

(-137) 周章

(-138) 周章

(-139) 周章

(-140) 周章

(-141) 周章

(-142) 周章

(-143) 周章

(-144) 周章

(-145) 周章

(-146) 周章

(-147) 周章

(-148) 周章

(-149) 周章

(-150) 周章

(-151) 周章

(-152) 周章

(-153) 周章

(-154) 周章

(-155) 周章

(-156) 周章

(-157) 周章

(-158) 周章

(-159) 周章

(-160) 周章

(-161) 周章

(-162) 周章

(-163) 周章

(-164) 周章

(-165) 周章

(-166) 周章

(-167) 周章

(-168) 周章

(-169) 周章

(-170) 周章

(-171) 周章

(-172) 周章

(-173) 周章

(-174) 周章

(-175) 周章

(-176) 周章

(-177) 周章

(-178) 周章

(-179) 周章

(-180) 周章

(-181) 周章

(-182) 周章

(-183) 周章

(-184) 周章

(-185) 周章

(-186) 周章

(-187) 周章

(-188) 周章

(-189) 周章

(-190) 周章

(-191) 周章

(-192) 周章

(-193) 周章

(-194) 周章

(-195) 周章

(-196) 周章

(-197) 周章

(-198) 周章

(-199) 周章

(-200) 周章

(-201) 周章

(-202) 周章

(-203) 周章

(-204) 周章

(-205) 周章

(-206) 周章

(-207) 周章

(-208) 周章

(-209) 周章

(-210) 周章

(-211) 周章

(-212) 周章

(-213) 周章

(-214) 周章

(-215) 周章

(-216) 周章

(-217) 周章

(-218) 周章

(-219) 周章

(-220) 周章

(-221) 周章

(-222) 周章

(-223) 周章

(-224) 周章

(-225) 周章

(-226) 周章

(-227) 周章

(-228) 周章

(-229) 周章

(-230) 周章

(-231) 周章

(-232) 周章

(-233) 周章

(-234) 周章

(-235) 周章

(-236) 周章

(-237) 周章

(-238) 周章

(-239) 周章

(-240) 周章

(-241) 周章

(-242) 周章

(-243) 周章

(-244) 周章

前頁末 525^{P-1/2}

君主 529^P 8行
527^{P-1/2} 15行

雍があとを継いだし
とある。(「史記」(上)平仄社、三六、三三五
頁。「倭人伝」を読む「森浩一、中公新書、七
八」七九頁参照)
ハし七九頁参照)
あれ、南方へはいつて蛮人の君長となつた太
伯・仲雍は、呉國の基礎をつくつた、と理解
される。
④
①とところで、史記「吳太伯世家」のこの
文章の中に、
「太伯が死んだ。子がなく、弟の仲雍があ
とを継いだし
と記されてあり、注目される。
* いうまでもなく、この記述が真実ならば
太伯の子孫は決してあり得ないわけであ
る。
② 一か一なから一方、倭人は自ら
太伯の後(子孫)である」
↑

524^P 7行

$$525^P - \frac{2}{2}$$

以下、思うところを述べてみた。
●史記が誤ってゐるのか、それは即座に判断できないか、
もしどちらかが間違っているか、間違っているか、といえよう。
■全くあい反することなのだから、少なくとも（後述）

そのなかには大倉政実 「姓国の本親」 17P
四本の厂史 読売 ①-119 読売後18

■ そーて、^{ちゅうしゅう}春秋左氏伝^{あいにしう} 哀公十三年条から

へ古公^{ここう}宣父^{せんふ}の長子^{ちやうし}太伯^{たいはく}の子孫^{しそん}が吳王^ごであつ

た

ように解^{かい}さゆる。

・ こう記^きされてゐる。

「盟^{めい}」^{ちかばい}を^おこなうに^{あた}当つて、吳^ごと

晋^{しん}と^か、^ち血^ちを^おすすする^{ぎしき}儀式^{ぎしき}の^{さき}先^{さき}を^{あらそ}争つた。

そのとき、吳^ごの人^{ひと}は、^{ふさ}夫差^{ふさ}は、

周^{しゅう}室^{しつ}の中^{なか}で、わが国^{くに}は長子^{ちやうし}の家柄^{いえから}です。

と主張^{ちやう}した。

すると晋^{しん}の人^{ひと}は、

姫^き姓^{せい}の中^{なか}で、わが国^{くに}は伯爵^{はくしやく}の家柄^{いえから}なので

すよ。吳^ご国^{こく}は子爵^{ししやく}の家柄^{いえから}にすぎないではあ

りませんか

と応酬^{おうしゅう}して互^{たが}いに譲^{やう}らうと^しなかつた。

という^と「春秋左氏伝^{しゅうしゅう}」世界古典

文学全集、筑摩書房、四四六頁参照

つまり、吳^ご王^{わう}夫差^{ふさ}は、^{たいおう}太王^{たいおう}とも呼^よばれる^こ古^こ建^{けん}國^{こく}

の始祖^{しそ}として故^こわれ、

大姫^{たいき}古公^{ここう}宣父^{せんふ}
ニ大王^{たいわう}
⑤524
9頁11行

523^P - 2/2

次頁から

528^P

また司馬遷は、^{（司馬遷）}史記^{（史記）}に呉太伯世家^{（呉太伯世家）}に
おいて、先ず「^{（太伯）}太伯には子が無かつたし
と述べておきなから、^{（何と）}何と、^{（後文）}後文（は
人の少し後の文）では、
「周が殷に勝つたとき、^{（武王）}武王は、^{（太伯）}太伯の子
孫を^{（虞夏）}虞夏と^{（呉）}呉の二ヶ所に封じたし
と記述している。
つまり、^{（司馬遷）}司馬遷の^{（史記）}史記には、^{（一貫性）}一貫性に
欠ける」と言えよう。
■少々長いが、当該箇所を抜粋してみよう。
こう記されている。（第17表参照）

538^{1/2}

529^{1/2}

539^{1/2}

560^{1/2}

前頁

改行

「太伯が死んだ。子がなかった。弟の仲雍があとを嗣いだ。これが呉仲雍である。仲雍が死んで、その子（あるいは太伯の子の誤りか）の季簡が立った。季簡が死んで、その子の叔達が立った。叔達が死んで、その子の周章が立った。このとき、周の武王が殷に勝って、太伯・仲雍の子孫を探し求め、周章をたねにあてた。周章は、そのとき、すでに呉の君主であつたので、そのまま呉に封じ、周章の弟の虞仲を、周の北方の故の夏の墟に封じて、この時、晋の献公が、周北の虞公を滅ぼした。句卑が死んで、その子の去齊が立った。去齊が死んで、その子の寿夢が立った。寿夢が立つて、呉ははじめて強大となり、王と称した。太伯が呉を建国してから五代で、周の武王が殷に勝ち、太伯の子孫を二ヶ処に封じた。その一が虞で、中国の地にあり、他の一が呉で、蛮夷の地にあつた。それから十二代で、晋が、中国の虞を滅ぼした。中国の虞が滅んで、

531P

1行
アケル

（やううと）
八代・宇土地を切り取って

国中の極南界（前九七年来倭奴国を建国した）
と解釈する（ように）よう。（詳しくは、追々

述べてゆきたい）

■なお、司馬遷は、いうまでもなく偉大である。

■だが、史記を讀みとる時、注意しな

ければならぬ重要な点がある。

「司馬遷は、眼前の資料に対し、消極的に

は選択を行ない、積極的には書きかえへ一種の

創造」を敢行して、彼が対象とする人間をつ

ねに最もありべきすがたに描き、しばしば

歴史的眞実よりも文学的眞実をうつすことに

忠実であった。司馬遷は時として事実をまげ

奇妙な書きかえを行ってゐる。かれの工作は

もはや明らかに文学の領域に奥深く踏み込ん

でゐる

という。（「史記」春秋戦国篇、田中謙三、中国古典選

朝日新聞社、末の一九二二頁、第4表の注

記参照）

＊

366

35-

仕、天啓改行
大遠征後
改行の末

渭水云

533 P

敗戦後の中国の政治と経済
吉野千鶴 著
⑦ 762号

513^P-4/4
553^P 改行

鮮国 ✓ の項参照

と申し述べ、武王がまた再拜して式をおわつた。
 これまで殷が受けていた天命を革め、周が受け継いだことを宣言したわけで、これを殷が周革命匹という。まあ中国では、こうした王朝の交替のころを「易姓革命匹」ともいう。たとえば「子姓の殷から姫姓の周へ」というように、支配者の姓がかわるからである。
 さて、殷都の社で天命を受けた武王は、殷の紂王の子の禄父をたてて、殷の民衆を治めさせた。もつとも、武王の弟の管叔と蔡叔がこれを監視した。（第17表参照）
 そののち軍を率いて西へむきあげ、周の根拠地である渭水方面へ凱旋した。武王は、豊水の東岸に、新しい都「鎬京」を建設した。ここに武王は古代聖王の子孫や、一族のおもだったものの、手柄のあった重臣たちを「諸侯」として、領地をあたえて国を建てさせた。と伝えらる。中国のあり様の見塚茂樹、河出書房、一一五〜一二三頁。第二章へ箕子朝

殷と滅ぼした後に
諸侯とて
前頁175
式典 952
儀式
⑤537に移す。トル

改訂 534^P

中口のあけの 123^P
124^P 改訂 249^P

■武王は、都の地へ帰ってから二年目に亡く
なつた。その時、子の成王はまだ幼なかつた
■そこで、武王の弟で政治・軍事に経験のふ
かい叔父の周公旦が摂政となつて、召公奭
(周公旦の弟、燕国の始祖)と相談しなが
ら政治を行なつた。(第17表参照)
■ところが、東方に残つて殷の禄父を監視し
ていた管叔と蔡叔の二人は、周公旦が成王の
位を奪つたとして、禄父と手を組んで反乱を
起こした。
■周公旦は、召公奭ら力を合わせてこの
内乱をとり静めた後、それからさらに東方へ
向かつて遠征を開始した。●淮水地域から山東省
の諸部族の討伐を行ない、大きな戦果をお
さめた。
この大遠征は、周王朝の基礎を固めるうえ
において、非常に大きな役割をはたしたのだ
つた。
●この戦いのあとで、論功行賞の式典が大々

凱旋した
帰国第一から

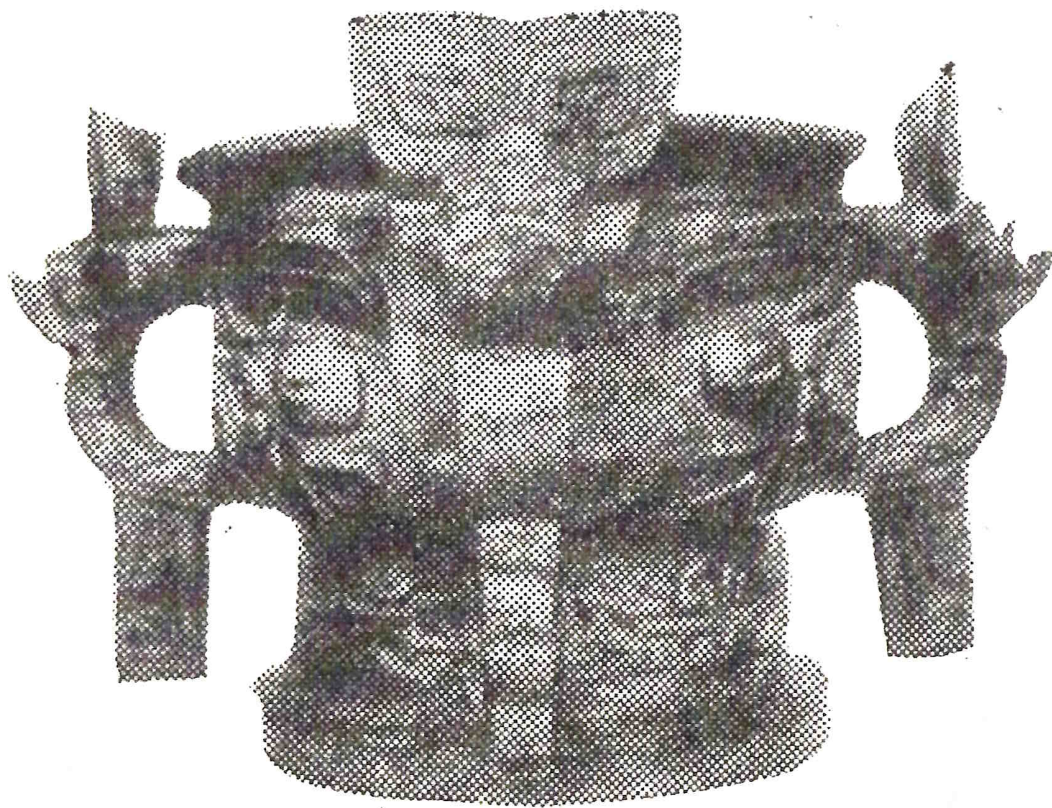
・この写真を上半部に掲載下さい。
(大きく載せたい)

536^P-1/3

田中館に
いい写真はないか
向い合わせ
ここに

中国 カナエ等
青銅器

著作権許諾は
不要でしょう。



たいほ き
大保簋

です。

以下、14GG 中心部巾付
写真図版 105

たいほ き 簋 前247

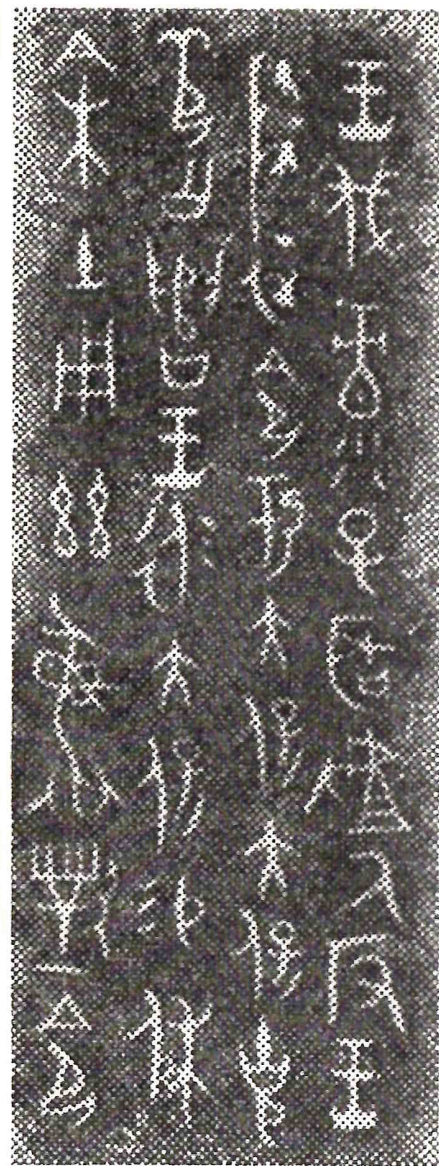
ショウチャン

めいほう たくほん

大保簋(山東省寿張県出土)とその銘文拓本

以下、13GG
中心部巾付

『中国のあけぼの』貝塚茂樹、河出書房、125頁参照。39^P



ゼロックス 2.8倍

536^P-2/3

・この写真下半分に掲載下さい。
(大きく載せたい)

ゼロックス 2.8倍

左の写真は、『中国のあけぼの』126頁に ≡
掲載されています。

→この写真は『中国周文化考古学研究』7頁に掲載
↓されています。
著作権許諾は不要だと見えます。



1404

ぎ こう そく き

タニ トウ

写真図版 106 宜侯矢簋 (江蘇省丹徒県出土) とその銘文拓本

めいぶんたふほん

1369 『中国のあけぼの』 貝塚茂樹、河出書房、126頁。『中国周文化考古学研究』 飯島武次、
同成社、7頁参照。

2217

この大遠征は、周王朝の基礎を固めるうえにおいて、非常に大きな役割を果たしたと思われる。

事実が記録されていったという。(「中国の

あけぼの」貝塚茂樹、河出書房、一二三―二五頁、中

つまり、周文化考古学研究、飯島武次、同成社、七頁、

揚子江を越えた江南

揚子江中流域

揚子江の下流域および中流域

揚子江の地へ進撃

周軍の為にめざましい

働きをした夷蛮の者達がいいたのかも知れない。

次のように想像される。(以下 第17表参照)

(1) 太伯の子孫である周章が、荊蛮の地の君主

であつたとき、周の武王が殷に勝つた。

(2) そして殷討伐後、成王の軍の東征が開始され

(3) 成王が率いる周軍が揚子江下流域へ至った時

太伯の後である周章・虞仲の兄弟が、周の為

に大きな働きをした。

(4) そこで、その功によ

り、周章を呉の地に封じ、弟の虞仲を周

の北方の虞の地に封じた。

といふ経緯があつたのであろうと思われ

先に、史記に「史記に八、吳太伯世

大遠征の後に使者を遣わして二人の兄弟を採せ

529-3/2 560 777

2585 529-3/2

536 P-3/3

535 16

⑦ 529⁰ 549 ~
4277 4400

⑦ 553 同文

⑧ 807^P
同又 ⑧ 560^P - 2/2

の
地
に
あ
つ
た

由 520
- 2/3

朝日新聞(2023)3.21(休)春分の日
ノーマスク 笑顔の春 9面



伝統衣装「漢服」を着て撮影する観光客＝20日

中国有数の桜の名所、江蘇省無錫市で20日、毎年恒例の「国際花見ウィーク」が始まった。新型コロナウイルスの厳しい対策が終わり、今年4年ぶりに会場の入場制限がなくなった。初日から多くの観光客が訪れ、ノーマスク姿での花見を楽しんだ。

同市の太湖湖畔の桜は、三重県出身の元日本兵が日中友好を願って1988年に苗木を植えたのが始まりだ。日中双方が植樹を続け、今では約3万本に増えた。過去3年は都市をまたぐ移動や会場への入場に制限があったため、来客は激減していたという。

(無錫＝井上亮)

友好 5年ぶり開花 中国で桜植樹

中国有数の桜の名所、江蘇省無錫市の太湖湖畔で、植樹活動に長年携わってきた日本の市民団体が5年ぶりに現地を訪れ、21日に桜の木を植えた。中国に出征した元日本兵が

日中友好のために始めた植樹は今年で37年目。咲き誇る3万本超の桜が多く、観光客を引きつけている。

団体は「日中共同建設桜友誼林保存協会」。苗木の



桜の木の下で撮影を楽しむ観光客ら
21日、江蘇省無錫市、井上亮撮影
朝日新聞(2023)3.22(全)
朝日新聞(2023)3.22(全)
朝日新聞(2023)3.22(全)

購入代金を寄付した人たちが例年訪中してきたが、コロナ禍で2020年以降は途絶えていた。植樹を始めた義理の父の遺志を継いだ新発田豊会長(72)は「桜は平和の印。立派に成長した姿を5年ぶりに見ることができて感無量です」と顔をほころばせた。

同市の桜は昨年より開花が遅めだが、花見の季節には毎年300万人超が訪れるという。(無錫＝井上亮)

江蘇省無錫市の『桜の名所』
(第3巻) 42-2/2

[注]『朝日新聞』の記事は、全て、
「大阪版」を採用している。

吳 212' 吳峰浩 812' 樹人 大木 1200' 馬のつぎ止
蘇州 425' 中口地団 911' - 2 大 こと。まがき、日
⑤537' - 2/6 衣 1306' 計 ⑩ - 1' ⑤539' 12 1/2 系

第18表 吳朝系圖

⑤520^p-2/3
「周」および「吳」の世系表

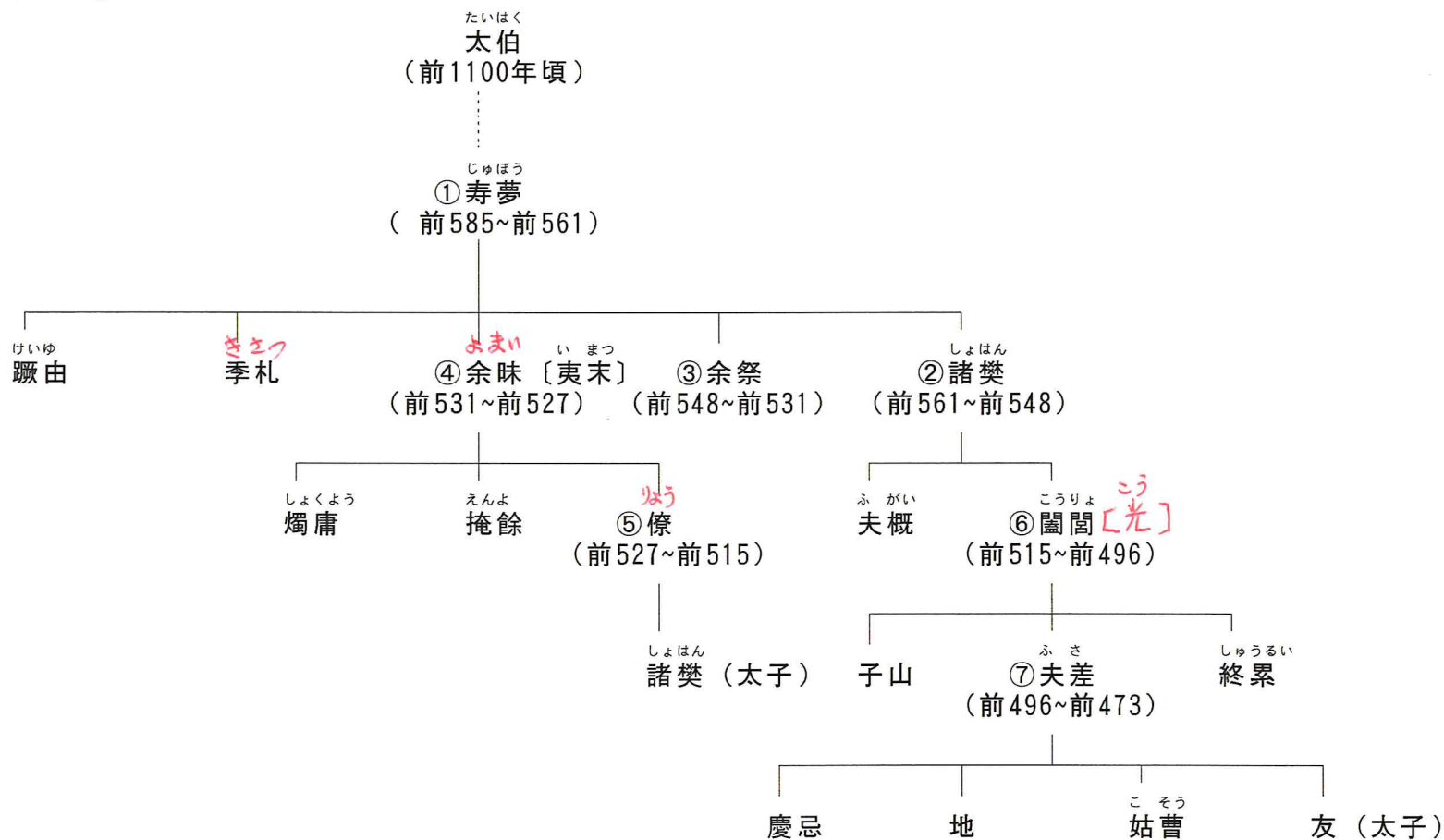
19表⑥647^p

538^p-2/2

・右頁の上半分に大抵
載せて下さい。

・できるだけ大きなゴ4。

第18表 吳朝〔春秋〕系図
「世界大百科事典」平凡社<吳>。
「春秋左氏伝」世界古典文学全集13 筑摩書房、523頁。
「世界の歴史」(3) 黄河のほとり、松本雅明、集英社、110頁参照。



* 未字は「黄河のほとり」110^pの系図による。

44

友を殺した
⑤542^p-1/2 13行

おひや
おかし
月 衣 319^P

⑤ 520
- 2/3

大正
 795
 吳漢
 三三

射術と馬術